

YAMABOKUワイルドスノーパーク

須高 保護だより

第10号

令和3年3月1日
発行 須高地区保護司会
編集総務部

高山村

ご挨拶

高山村教育長 山岸 深志



つい最近まで、私たちは世界や日本の社会がこのような状況になるとは予想もしていませんでした。毎日仕事に通い、時には買い物に出かけ、家族や友人と食事を楽しむ等が私たちの日常でありました。しかし、現在、感染防止のため社会活動が大幅に制限され、それに伴い経済活動にも様々な影響が出てきております。そして、この状況は社会の中で弱い立場の人々に更に大きな影響を与えることとなりました。そのような中、互いの協力や支え合い、ボランティアの方の支援についても日々報道され、困難な状況の中ではこのような支え合いや支援が社会の中で非常に大切であり大きな力となることを改めて感じさせられたのであります。

さて、須高地区保護司の皆様方は常日頃より、社会の中で課題を抱えている方の就労支援や生活支援をなされたり、作文コンテストやもの作り等を通して啓発活動を行ったりしておられま

す。この活動は社会にとって大切な活動ではありますが、目立たず注目を浴びることも少ない活動でもあり、その取り組みには心より敬意を表します。

過日テレビである保護司の方の活動が紹介されていきました。社会になじめない方、また、会社から避けられてしまう方への自立を促し社会復帰を図る取り組みでありましたが、その成果は中々目に見えず、周りからの協力も得にくい状況でした。しかし、わずかでも前進することを願い親身になって取り組んでおられる姿が強く印象に残っています。

須高地区保護司会の皆様も、様々な立場から粘り強く地道な取り組みをされておられる事かと思えます。特に、今回のコロナウイルス禍の中では、支援を必要とされている方は厳しい状況に立たされており、保護司会の皆様方には以前にも増して苦労も多い事かと思えます。しかし、皆様方の活動は、社会の土台を支える大切な活動であります。須高地区保護司会の皆様のご取り組みに感謝を申し上げるとともに、今後益々活躍されることをお願いし挨拶とさせていただきます。

須高地区保護司会

会長 小柳 邦義



令和二年度の保護観察業務の活動を振り返った時、コロナ禍に関する言葉を避けられない程未曾有な年となりました。

新型コロナウイルスの感染が発生し、瞬く間に世界中に感染が拡大し、やや小康状態を保ったものの、新年を迎え第三波が猛威を振るい、生活様式や社会経済に大きな支障と変化をもたらしています。

保護観察業務においても、コロナ禍における様々な活動の自粛要請等により、県更生保護大会が延期となり、須高地区でも大きな行事である「社会を明るくする運動」が、総理大臣メッセージ伝達、ポスターの掲示は出来たものの、接触型広報活動である駅前街頭啓発活動や社明講演会、さらには管内小中学校から毎年多くの応募があった作文コンテストも取止めました。

また保護司会総会も書面表決を取入れ、関係協力団体との意見交換をはじめ、歓送迎・祝賀会等大勢の人的交流の会合の場も中止となり、大変残念な結果となりました。

対象者との面接も「面接前チェックシート」の活用や電話等で対人接触機会の縮小や見直しを図り、ソーシャル

ディスタンス、三密等避け感染防止に心がけ、研修会や理事会、部会も必要最小限に留め、唯一サポートセンターの開所と毎月の企画調整会議は開催できました。

このコロナ禍の大変な一年間でしたが、当地区の保護観察事件数が多少なりとも、減少したことは良かったと思います。

新年度は、新型コロナウイルス感染が早期に終息することを願うと共に、コロナ禍にあっても、感染防止対策を取りながら保護観察業務が円滑に推進できるように創意工夫していきたいと考えております。

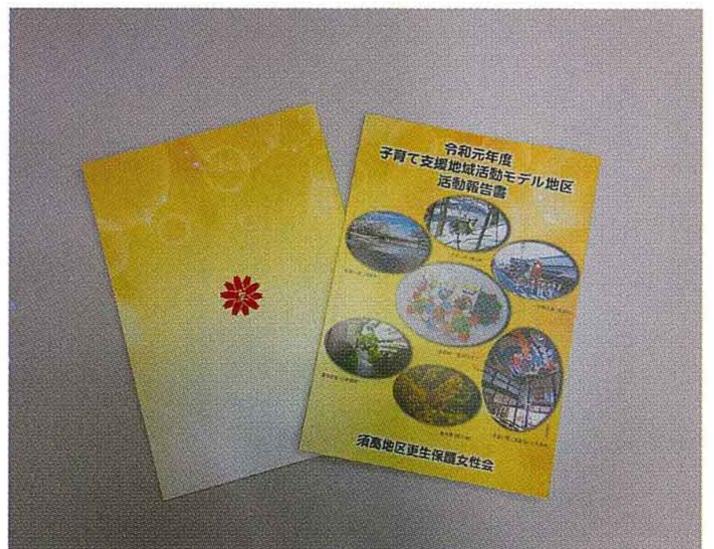
須高地区更生保護女性会

会長 花岡 君江



令和三年になり、早や三ヶ月が過ぎようとしております。昨年春ごろから、コロナ騒ぎになり、年間計画の総会もできず、書面表決ということで、皆様に賛成して頂きました。

前会長さんから引き継ぎまして、荷が重いながら、やっと、七月頃に引き続きをいたしました。新しい役員の方々の顔合わせに、今年は何をしたら良いだろうかと皆さんの意見を募りました。コロナ禍の中で、いったい何をしたら喜ばれるだろうか？と。世間



子育て支援地域活動報告

予防の活動や子どもたちの健全育成のための子育て支援などを行うボランティアなのだ」と改めて感じさせられました。

令和元年度、長野県更生保護女性会から「子育て支援」地域活動のモデル地区の指定を受けて、会員たちが、愛の鈴づくりと座布団ゴマの製作と、小布施町では、エンゼルランドで手作りおもちゃのお手伝いやお子守、高山村では七夕飾りや、まゆ玉づくりなど、年間支援活動をしてきました。その成果を県更生保護女性会にも提出いたしました。各地区でのこうした活動は、お互いにとっても参考になります。コロナ禍での子どもたちを非行から守ることを考えながら活動をしていきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

須高地区更生保護

協力事業主会

会長 大井 教雄



昨年は、コロナ禍で世界中で、パンクに至り大変な時期になり、一人一人に圧力が重くのしかかる今日この頃であります。敗けるわけにはいかないとあります。

さて私は、今年度より事業主会の会長に指名され、責任を感じる昨今ですが、今後も保護司の皆様、又事業主会

では、人の手を介して菌が媒介するのではないかといろいろ思案した結果、意見が出ずに、私が提案した更生保護協会で出版された「絵本コウくんときいろいはね」と「ぬり絵」を保育園の卒園生に送ることにしました。何年か続いた「愛の鈴」と「折り紙の座布団ゴマ」の贈呈について今年は見送ることになりました。しかし、ここで須坂市から本の贈呈は寄付行為になりますので、寄付申請書を提出してほしいといわれ、事務局で対応して頂きました。

すでに、各保育園と幼稚園にも贈呈しました。子どもたちにとって、心の成長に役立つものと思います。そして、何故黄色い羽根の意味は、社会を明るくする運動の一環として、犯罪のない幸福な社会を願うシンボルマークです。女性会では、地域における犯罪

の先輩方、又スタッフの皆様方と、連絡を取り合い活動に励んでいく決意です。

又、私は令和三年度より、須坂市ソフボール協会の会長に任命されました関係でプリズンの皆様と親善試合を考えております。実現に向けて話し合いをしたいと思っております。巡り合いを大事に、心の交流を願う今日この頃です。今後も、啓発活動、各行事等に積極的に参加出来る様に調整していきたいと思っております。

須高地区の現状について

長野保護観察所

保護監察官 小原 英馬

須高地区保護司会をはじめ、須高地区更生保護女性会、須高地区協力事業主会の皆様におかれましては、平素から更生保護の諸活動に対し、多大な御尽力を頂き、篤くお礼申し上げます。

さて、須高地区の保護観察事件等の現状について説明させていただきます。

令和三年二月一日時点での須高地区の保護観察事件数は、一号観察（保護観察処分を受けた少年）三件、四号観察（保護観察付執行猶予判決を受けた者）六件の計九件です。四号観察については、その全件が全部執行猶予者で、一部執行猶予者はありません。

生活環境調整事件については、刑事施設収容者が九件、少年院在院者が一件の計十件です。

保護観察事件、生活環境調整事件共にここ数年は十件前後で推移しています。保護司や関係者の皆様のおかげでもあり、事件数に大幅な増加は見られません。

保護観察の内容については、生活に困窮していたり、なかなか就労に至らなかったりと一部処遇が難しい者もおりますが、おおむね順調に推移しています。

新型コロナウイルスの影響により、保護観察処遇においても様々な御苦労があるかと思いますが、引き続き御協力よろしくお願いいたします。

保護司になって

保護司 南澤 好夫

短期間でしたが、保護司として活動

し此の度一身上の都合により退任することになりました。思いおこせば今日迄に受け持った対象者（僅かですが）良いのか悪いのか分からず、保護司として自分なりに対象者と意思疎通を謀るべく付度し、遵守事項を守るべく、共に行動をしました。

指導とか助言等する様な立派な保護司ではありませんでしたが、意外にも受け持った対象者とは気持ちを通じない（若い方も同年代の方も）面接も問題なく、一回も無断欠席はありませんでした。しかし面接も月二回以上となってくれば、遵守事項も守っているとなると話す事もなくなって、私の指導出来る事と云えば、以前戸隠の蕎麦屋さんに習った蕎麦打ちと一緒にやろうという事に成り、蕎麦打ち、うどん打ちと、そのあいまに近況報告を聞く事になり、むしろ良かったと思われた。

その反面、先月解除になった対象者の方は途中半ばにして、脳内出血を患い、右半身不随、言語障害で、約一年入院及びリハビリ通院、私との面接も病院に見舞というかたちをとり、蕎麦打ちも、うどんも打てなくなり、残念。この対象者の方にはぜひ覚えてほしかった。何故なら、この対象者は腿から下を以前交通事故で無くしている身障者だったのです。一人で立って出来る仕事を指導したかった。

初めての面接を通して今思うこと

保護司 花形多美子

はじめての来訪日。緊張しながら迎

えに出たがなかなか本人の姿が見えない。その後も何度か無断キャンセルが続いたので、往訪に切り替えてみた。それでも約束の時刻までに起きてくる事ができないという状況が続いた。『どんな青年なのだろう』と気がかりだったが、話をしてみたら素直な青年だった。

職場でのできごと、切なかつたこと、うれしかったことこうしたらいいのと思うこと等話してくれた。しばらくすると、日頃の失敗談も話題に出てくるようになった。しかし、都合の悪いことには触れてほしくないようだったし、保護観察の状況をまだ十分に受けとめられていないように感じた。

そこで、威圧的に説教調の話をするよりも、まず、本人の話や思いを受け止めようと思った。しだいに彼女のこと、貯金のこと、産みの母親のことも話してくれるようになった。見通しももって生活していけるような話題にも触れていけるようになった。ところが、悲しくも再犯という事態になってしまった。

本人と和やかに話ができるまでにはなつたけれど、今後は『今の状況から抜けだしたい』『こうなっていきたい』という思いを本人がもち、それを支えていける支援もできるようになりたいものだと思っている。

新任保護司

新任保護司として

保護司 水澤 弘行

私は、昨年からNPO法人長野県就労支援事業者機構の非常勤職員として、保護観察対象者等の就労の支援をしています。職安等の関係機関、協力雇用主等の協力を得て就労を支援し、雇用主への各種支援制度の紹介、機構独自の助成のお手伝いをしています。

今般、保護司となりましたが、地域のことでも知らないことが多く、皆様に教えを乞いながら学ぶ所存です。で、今後ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

新任保護司として

保護司 佐藤 育子

このたび、保護司の委嘱を承りました佐藤と申します。保護司の重責は、中途半端な気持ちで担えるものではありませんし、自身の資質が問われることを考えますと私のような経験の浅い若輩者が仰せつかって良いのか正直なところ、大変迷いました。できることは限られますが、諸先輩方に御指導をいただき、対象者の方々と同じ方向を見つめ更生保護の一役を担えたら、と思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

令和二年度須高地区更生保護サポートセンター及び部会報告

サポートセンター運営状況

企画調整保護司 三木 一徳

◇当センターは、平成三十一年三月発足後ほぼ二年経過しました。

コロナ禍の中、その感染拡大防止に配慮しつつ、毎週月水金の午前十時から午後四時(年末年始と祝休日を除く)までの駐在実施とともに、毎月企画調整会議を開き、駐在日程、運営課題等について情報交換を行ってきました。

なお、当センターは、各部会、更生保護関係団体の会議等の他、今年から休日等の面接にも利用されるようになりました。今後、多くの保護司各位の利用が期待されています。

総務部

部会長 小柳 邦義

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策から、多人数との接触機会の会合等は自粛や中止となりました。従って、大勢参加の下で例年実施していた定期総会も、今年は書面による表決を取入れ行いました。

また、「須高保護だより」もコロナ禍で、行事中止から紙面数を縮小し発行することとしました。

研修部

部会長 市村多喜子

コロナ禍の中、感染防止対策を講じて実施。第一期、転居、旅行手続きについて。第二期、発達障害を有する対象者の処遇について。第三期定期研修につきましては、感染状況を踏まえ、中止とさせて頂くことと致しました。

犯罪予防活動部

部会長 佐藤 友二

毎年「社会を明るくする運動」の一環として、作文コンテストを実施しています。作文を書くことは、自分の内面を見つめる作業です。そうした心の働きこそが、犯罪のない明るい社会を子供達の未来に築く基になると願っています。

協力組織部

部会長 野平 芳一

当部会は、更生保護協力事業主会と連携し、保護観察対象者の企業への受入と保護司からの受入要請を調整する役割を担っています。雇用に到るケースは稀ですが、試行錯誤をくり返しながら、悪戦苦闘しているのが現状です。

長野県更生保護功労者顕彰

- 法務大臣表彰 小柳邦義
- 全国保護司連盟理事長表彰 市村多喜子
- 竹前見(竹前郷史内助功労者) 関東地方更生保護委員会委員長表彰 西原ちえ子
- 長野県知事表彰 長野山信行 横山芳美 (更女)
- 長野県保護観察所長表彰 長野内宏美 林映寿 森川千恵子
- 長野県薬物乱用対策推進協議会長表彰 渡辺章宏
- 受賞者の皆さん おめでとうございます

保護司の異動

- ◎退任保護司 内山信行(令和二年五月二十四日付) 南澤好夫(令和二年二月二十八日付) 長年の活躍に心より感謝を申し上げます。
- ◎新任保護司 水澤弘行(令和二年十一月十日付) 佐藤育子(令和二年十一月十日付) 今後のご活躍をご期待申し上げます。

あしがき

巻頭言をご寄稿頂きました高山村教員 須高保護だよりも、関係各位のご支援、ご協力により、記念すべき第十号を発行することができ、感謝を申し上げます。例年作文コンテストで、優秀な作文を掲載させて頂きましたが、今年度はコロナ禍で中止となりましたので、紙面数を縮小し発行しました。紙面をお送りした長野地区保護司会と関係紙の発行内容等について、情報交換会を開催しましたので、今後の発行に情報を生かしていただければと思います。今後は、一日も早くコロナ禍が終息することを願っております。

(総務部)